

2. 伐木作業における注意事項の確認と安全管理の徹底について

山しごと手習い塾は初心者向けの講座であり、あくまでも人工林の手入りに特化した内容です。極めて限定的で初歩的な内容に過ぎないことをまず確認してください。実際の現場においては様々なケースが考えられるため、初心者が講座で習得した技術だけで対応するのは限界があります。そのため、自分の技量を過信せず、必ず信頼のおける経験者とともに作業することを、まず前提としてください。

①松や広葉樹に不用意に手を出さない

杉檜がある程度伐れるようになったからといって、松や広葉樹に安易に手を出すのは大変危険です。

松や広葉樹は大きく傾いていたり、枝を張り出していたりして重心を読み取るのが大変難しいです。

また、今回の事故にあるように、広葉樹の場合、樹種によっては繊維がもろく（ツルが効かない）、縦に裂けやすい（バーバーチェア発生）という性質があるため、状況に応じた高度な技術を駆使しなければ、安全に倒すことは難しいということを十分に認識してください。

一般的に、広葉樹や偏心木を伐る際に「追いヅル伐り」という手法がありますが、これも、きちんとした目立てとチェーンソーワークの技術がなければかえって危険な状態を招きかねません。

従って、松や広葉樹の伐倒は、信頼のおける経験者、または森林組合・林業会社等のプロに頼むべきです。

【注意！】田舎では周囲の人から、支障となる松や広葉樹を伐ってくれと頼まれることがあります。断固として断るべきです。支障木伐採はプロの領域のものであり、素人が安易に請け負うものではありません。

②杉檜であってもバーバーチェアは起こりうる

今回の事故のような「バーバーチェア（幹の裂け上がり）」は、広葉樹に限ったことではありません。杉檜のような針葉樹でも、1）重心が大きく傾いている、2）牽引ロープを強く引きすぎている、3）ツルを厚く残しすぎている等の場合には、幹が縦に裂けることは十分に考えられますので注意してください。

③風倒木、枯損木、弓なり木等の危険木に手を出さない

大風や雪の影響で傾いたり弓なりになっている場合は、たとえ細い木であっても、縦に裂けたり思わぬ方向に倒れる危険性があります。

また幹の一部が腐っていたり、内部が空洞になっている場合は、ツルが十分効かずに伐倒方向が変わってしまう可能性もあります。

枯損木の場合は、伐倒作業の途中で梢部分や太い枝が折れて落下し、伐木者に当たる危険性もあります。

十分な経験のない方は、こうしたケースについても安易に手を出さないようにしましょう。

④自身の経験値を超える大径木、極端な偏心木に手を出さない

だんだん技量が上がってくると、人の心理として「さらに大きな木を伐ってみたい」「より難しいケースに挑戦してみたい」という欲が出て、どんどんエスカレートしてしまいがちです。しかし、自身の技量を過信して実力以上のケースに挑戦するのは無謀であり、一歩間違えば重大事故につながります。

また、YouTubeなどの動画サイトで紹介されている情報の中には間違っただけのものも多いので、決して鵜呑みにしないようにしてください。

そうした意味で、必ず信頼のおける仲間や経験豊かな先輩とともに作業をし、忠告を含めた客観的なアドバイスをもらいながら、徐々に技術を高めていくことが賢明です。

⑤基本事項の徹底

今一度、以下の基本事項を確認し、徹底してください。

- ・単独作業を避け、複数人で作業する。万が一の場合に、応援、救助を呼べる体制を確保する。
- ・携帯電話が通じるなど、外部と連絡が取れることを確認する。家族に、作業場所、作業内容、帰宅予定時間等を伝えておく。
- ・原則として牽引具を使用し、安全確実な伐倒に徹する。
- ・木回しによる掛かり木処理の際、外れた木の下敷きにならないよう足の位置、体の位置を考慮する。
- ・日頃からのチェーンソーの整備、特に目立てをしっかりとる。
- ・禁止事項とされている、かかられている木の伐倒、浴びせ倒し、元玉切り、掛かり木を肩で担う…などを絶対に行わない。

以上